



●The View Hotel (アメリカ 南西部)

2008年にオープンしたこの宿泊施設、ナバホ族の聖地であるモニメントバレーの地に建てられました。ナバホの土地と文化を尊重しながら、観光振興と地域の雇用創出を目的として計画されています。

全ての客室に壮大な景観を一望できるテラスが設けられ、日の出から日の入りまで刻々と変化する神秘的な太陽光と、約2億7千万年前からの大地の表情を満喫できます。日没後は闇が広がり満点の星が空を覆います。

建物は低層、外壁色は乾いた大地から繋がり周囲の自然景観の一部となっています。また内装は地元の伝統的な手編みのラグやカラフルなテキスタイルで彩られ暖かみと力強さを感じられる設えです。 (幹事：鈴木章子)



●「PCCS トーン」考

同じ物体なら照度が変わり反射光の強さが増減しても明るさの印象は変わらず、白い紙は白に見え、灰色に見えたりはしません。明るさの恒常性という仕組みです。物体の反射率は0～100%の範囲に限られています。その範囲内で主観的に相対尺度が構成され、私たちが物体を見たときに、照度に応じて黒から白までの階調を判断しているようです。物体の色には、彩度についても取り得る範囲の限界があり、その範囲内で同様の判断がなされているとも考えられます。

PCCS トーン は主として明度と彩度との複合による主観的等価感をいう概念で、トーンの等しい色系列は何らかの共通点を持ち、あざやかさ感が等しく感じられる色系列とされています。

同一トーン系列の色とは、色体系上や心理物理的には、各等色相面において白、黒およびVトーン系列色に対する相対位置（明度および彩度を表す色座標の相対的な値）が等しい色ということが立証されています。

心理的にも同様に、明度と彩度の主観的な相対位置が等しい色で、それをあざやかさ感が等しい色と言うのかも知れませんね。

(久下靖征)

●大辞泉ひろいよみ 110ーし

紫金：しきん。赤銅の異称。

紫禁：しきん。（天帝の居る所の意の「紫微垣」から）天子の居所。禁中。紫禁。

紫金城：しきんじょう。中国、明・清朝の宮殿。

視紅：しこう。脊椎動物の目の網膜にある紫紅色の感光物質。光が当たると化学変化を起こして色が薄くなり、暗くなるとともに戻る。ビタミンAが欠乏するとこの物質が生成されず、夜盲症になる。ロドプシン。視紅素。視紫紅。

紫毫：しごう。ウサギの毛で、濃い紫色をしたもの。また、その毛で作った筆。

紫黒：しこく。紫がかった黒色。

二黒：じこく。九星の一。星では土星、方向では南西。

紫根：しこん。ムラサキの根。古くはその煮汁を染料とした。漢方では解熱・解毒薬に用いる。

紫根色：しこんいろ。紫根で染めた染め色。深みのある濃い紫色。

紫根染め：しこんぞめ。紫根で染めること。また、染めたもの。

紫紺：しこん。紫紺。紺がかった紫色。濃い紫色。

*大辞泉：小学館発行国語辞典（永田泰弘）